

Z会進学教室 葛西通信 6月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室卒業生の声をお届けします。

「いままでを振り返って」

東京大学1年 M.H.

はじめまして、2021年度にZ会葛西教室を卒業し、今年でちょうど大学1年生になるM.H.と申します。

僕はZ会の教室には小学校6年の頃からお世話になっていて、それ以前に通信の添削もしてもらっていたこともあるので、今までの教育をZ会とともに歩んできた人間となります。つい最近まで高校生でしたが、Z会に身を捧げた人間が学んだことを精一杯書き記していくので、読んでもらえれば嬉しいです。



中学受験編

小学校4年生まで僕は北海道のど田舎に住んでいて、全校生徒14人の学校でのびのびと過ごしていました。Z会の添削教育を受けていたものの、サボっていたのが親にバレないように鍵付きの引き出しにしまっていたので教育の面では何か特別なことをしていたわけではありません。小5になり上京したときに早速某有名塾の夏期講習に参加してみたものの、小3から勉強している周りの異次元さに圧倒された記憶があります。



その後小6になってZ会葛西校に入ってからが僕の運命の始まりでした。とはいっても中学受験の意欲が全くなかったのが当時は長妻先生に「やれるね?!」と言われながらも「そんなに熱くはなれませんが…」と答えていました。勉強はしていたので成績はそこまで悪いものではありませんでしたが、今となっては机の上に乗って温暖化に怯えるしろくまのモノマネをしていた大和先生のことくらいしか覚えておらず、何となくで受けた1校に落ちて僕の中学受験は幕を下ろします。

高校受験編

地元の公立中学に入学した後は、勉強は嫌いではなかったので1年生のころから葛西教室にお世話になりました。中1の頃から5教科をとって、理社に関しては受講生が僕1人しかいなかったのが個別みたいな雰囲気でした。中1,2のときはただただ塾の授業と宿題だけをやっていました。受験期の授業に関しては下のようでした。

国語

中1、中2で学んだことで最後まで使ってたのは丸山先生の文法事項でした。歌に合わせて覚えるのですが、単純に点がめちゃくちゃ取れます。その後中2の最後の方に大和先生が「速く読めるといい!」みたいなことをおっしゃっていたので、中3になって国語を意識し始めた時にはまず速く読むことを意識しました。宿題などで1回目はなるべく速く読み、2回目以降は毎回必ず満点をとるという意識を持って突き詰めていって授業に臨みました。中3からは担当の先生が長妻先生になったこともありとてつもないモチベーションを持って進められました。国語の質問もちょくちょくするようになり長妻先生に「あなたの質問面白いですね」と言われたのがめちゃ嬉しかったです。早い時期から読む速度がついていたので、夏休み明けの都立入試を想定してそんなテストでもすでに時間内に作文まで書き切ることができていて(内容は悪い)、残りの時期は全て、短い時間でちゃんと点を取れるようにしたり、残った時間でちゃんと記述を書く練習をしてました。本番での時間配分は半分の時間で選択問題を全て埋め、半分の時間で記述を書いていました。



数学

数学は中1,2の頃からずっと好きでした(口が裂けても得意なんていえない)。中3になって阿部先生のプレッシャーに耐えながらどう数学で満点が取れるかを考えた時に、ちゃんと各問題を満点取る気持ちで解くところから始めました。特別な教材は使わず、先生から頂いたプリント類をすべてパターン化するのではなく、自分の論理を突き詰めて当たり前のように解けるように思考回路を整頓していき、わからない問題はなぜわからなかったのかをひたすらに考えていました。夏休み中に配られたプリントを2周すると数学は一通り点が取れるようになりましたが、その後の数学の勉強が少しマンネリ化してしまい過去問の点が思うように伸びなかったことから、受験期直前に先生に「合格最低点ギリギリを狙え」とも言われました。実は過去問の解答もちょっとだけ手直しして出しました本当にごめんなさい本当はもっと低かったです。あと証明問題の文字が小さすぎたので、大きな字で書くようにしましょう。



英語

英語に関しては、3年間の黒磯先生の授業を真面目に聞いているだけでテストでの点は取れるようになっていました。自分で間違えた問題を集めたりもしてました。暗記すべき英単語に関しては、中3の10月に英検の準2,2級をダブル受験した時に勉強して都立入試レベルまではちゃんとできてたと思います。私立入試レベルにはまだ届いてなかったと思うので、そこをちゃんとやればよかったと思ってます。国語と同様、英語も中3の夏明け頃から速く読むことを意識していて、母語話者がどう速く読めるのかを考えた末、目で読む方法を使ってみました。頭の中で発音せずに、目をズラーっと動かし、頭で内容を理解するのではなく目で理解する感じです。この方法を試してから英語を読む速度が2倍くらいになったと思います(ちなみに国語も同じ方法で読んでました)。

理科

理科は好きだったので、やるのが他の教科より早かったです。夏休み中に全国入試問題正解を終わらせたりしてました。理科はとにかく夏休み中に問題をズカズカ解いていたことと、受験期直前になるにつれて授業中に猫の話ばかりし出す齋藤先生のことくらいしか覚えていません。



社会

社会は中2の終盤に「来年大変そうだなあ」と思い、年号の語呂合わせをしていました。そのおかげもあって中3の前半はより正確な暗記に、後半はたくさん問題を解くことに充てられました。とはいっても、夏明けの模試でボコボコにされた国際情勢あたりの年号を覚えてしまっただけからは、問題演習が全て消化試合みたいな感覚でつまらなかったのも、入試問題正解はやってませんでした。社会で暗記と理解どちらが大事か？という疑問があると思いますが、結局はどっちもやれば良いと思います。自分の場合は暗記が理解に先立っていたので、まずは暗記をやることをおすすめします。暗記の方法は簡単で、何かしらの系統順に出来事を並べ、手で隠しながら覚えるまでひたすら繰り返してました。各々の量は少なくてもいいので、とにかく繰り返せばいいと思います。好きな語呂合わせは恵下先生の「平清盛いいむなげ」です。ちょっと恥ずかしそうに言うのがポイントです。



大学受験編

高校受験の末晴れて都立日比谷高校に入学し、いよいよ僕の青春が始まりました。が、高1の頃は外部の医療ビジネス系のプロジェクトに参加していたり、文化祭を運営していたり、高2の中頃からは起立性調節障害という病気になり学校を休みまくってたりして、学校の記憶はあまり鮮明には残っていません。部活をやったり、友だちと長期休みに旅行に行きまくったり、受験直前はクラスの人と図書館やZ会で勉強してたのが不服にも僕の青春の全てとなってしまいました。大学に入ってから、日比谷高校は本当にいい学校だということをしみじみ感じます。公立の進学校としての実績はもちろん、学校の雰囲気としてとても異質かつ素晴らしいものが完成されていて、入学してくる人もみんな独特だけど面白い人たちばかりです。高校生活に関しては何も悩まずに友達とカラオケ行って、旅行して、Z会で勉強すれば、まず素晴らしいものになるので頑張ってください。

勉強に関しては先に断っておくと、先程述べた起立性調節障害という病気のせいで半年ほど全く勉強ができず、その後も満足に勉強時間が確保できていなかったのも、勉強がものすごく遅れていました。なのであんまり参考にしないほうがいいと思いますが、自分は割り切って10月ごろまでとにかく基礎的な参考書をつめ、共テ直前は共テ9割超えないなら東大受けないという気持ちで打ち込み、無事9割超えたので東大の過去問を回しまくるという戦法で、なんとか受かることができました。各科目の勉強法は下のとおりです。

国語

共テでは、現代文は直前期に学校で配布された問題集、古漢はいろはの古文単語習得、日比谷のS先生おすすめ「古文入門」と「漢文入門」(両方とも絶版)を用いて、本当に基礎中の基礎だけやってみました。持論として、古文は日本語によく似た外国語として学ぶのがとても良いと思っていたので、英語同様に単語をガチガチに固めれば(共テレベルは)意外といけます。単語と文法の基礎をやった後はもうひたすらに過去問を回して、共通テストの形式に慣れることが大切です。共テ国語は落としやすく、みんな甘んじている科目なので、逆に180以上を取れば一気に総合点数を稼ぐことができます。



東大二次に向けて、現代文に関しては学校でもらったものすらあまりやってなかった気がします。愛と勇気と長妻先生で乗り切りました。高校受験の時に国語に全力で取り組んでよかったと思います。古文、漢文も共テのほぼ延長線上(なんならおなじ)だと思っていたので、直前に赤本を2年ほどみて答え方だけを学んでいました。正直国語に手をそこまで回す余裕はなかったし、理系なのでなめた対策で済みますが、文系の人は諦めてちゃんとやってください。

数学

数学は勉強がとても遅れていた科目の一つではありますが、高1の頃からZ会に通っていて、真面目にサクシードをたくさんやっていたので各単元では特になかったです。とりあえず参考書一つを何周もすればかなりの実力はつくと思います。その後高3から通い始めた渋谷教室のT田先生という方が最高の先生で、本当に良かったです。数学の知識は一通りあって解けない自分にとって、数学との向き合い方を教えてくれるような先生の授業はまさに求めていたもので、先生のかわいい人柄も相まって数学へのモチベーションが爆上がりしました。僕の勉強法とかどうでもいいので、大学受験するならとっととT田先生の授業を受けるべきだと思います。



英語

英語も勉強がとても遅れていた科目の一つでした。高1の頃はS田先生の授業を受けることでS,V,Oを少し意識するくらいにはなっていました。勉強ができていなかった時期の影響をモロに受け全く伸びず、高3になる前に先生を変えようと思っていました。そのときに御茶ノ水の教室長から「この先生怖い」と脅されていたS木先生の授業に飛び込んだのが僕の運命の分かれ目でした。S木先生に出会っていなかったら、多分僕は大学受験はおろか今後の人生全てにおいて失敗していたと思います。S木先生は英語に関しても本当にとんでもない先生で、何より勉強そのものに対してや人生に対しても向き合い方さえも教えていただけるような授業をしていただき、病気で完全に精神が参っていた自分をどん底から引き上げてくれました。T田先生同様、大学受験をするのに、というかZ会に入ったのにS木先生の授業を受けないのはおかしいとまで言えます。僕はS木先生の授業のおかげで東大に入れました。あそこにはこの世の全てが詰まっています。一応高校に入ったばかりの人に向けて言うと、S木先生の授業を取れない内はとりあえず単語帳を何周もして一年かけて一冊完成させればいいと思います。その後S木先生の授業をとってください。

★ Hang
in
★ There! ★

物理

僕は物化のどちらかを自学でやろうと思っており、物理を塾でやることに決め、物理は高2春季講習からT中先生の授業をとっていました。T中先生もこれまたとんでもない先生で、だいすきです。授業があり得ないくらいわかりやすく、おしゃれで、お尻の形がきれいで素晴らしい先生でした。T中先生の授業がわかりやすすぎるあまり、結局僕は卒業までに物理の教科書を開くことはありませんでした。特段特別なことはせずとも真面目に授業受けてれば物理を深く深く理解することができ、あとは過去問をやればやるほど点が取れるようになっていきました。理系として大学受験するならT中先生を受講してください。僕はT中先生と東大の過去問しか解いてません。



化学

物理とは違い、僕は化学を自学でやろうと思っていたのにも関わらず、病気の影響で全然手をつけられていなかったのがかなりピンチでした。学校の授業をさらっとやっていた程度で受験に対応はできていなかった中、理科を伸ばすべき夏休み中にセミナーやろうとしても勉強時間がとれず半周程度で終わってしまい、そもそもつまらないので意欲が湧きませんでした。本当にやばいと感じて10月を迎えた頃、高校のK先生が「新理系の化学100選」という本をお勧めしていたのを耳に挟み、S木先生の「薄い参考書でいいから一冊完成させろ」との教えを胸にこれに取り組もうと決心しました。その本が本当にわかりやすく自分に合っていたので2ヶ月で3周、苦手な理論分野は5周することでガチガチに化学のベースを整えることができました。共テに向けてはおなじみ「鎌田の有機化学」「鎌田の理論化学」「福間の無機化学」をやり込み突破し、二次に向けては東大の過去問をまわし読み物として「化学の新研究」を読んだりしてなんやかんや物理より高い点数をとりました(物理がそこまで高い点とれなかった)。僕としては本当に「新理系の化学100選」を推します。これがなかったら落ちてたと思います。

地理

なんと理系なのに共テで社会科目が必要ということで、僕は地理を選びました。理由としては、時間がない自分にとって短期間でも高得点が狙える科目だからです。地理も完全自学で、お馴染み「共テ面白いほど点が取れる本」と「村瀬の地理(系統と地誌両方)」をやりこんでいました。これだけを読み込んでいただけでは伸びなかったのが、共テ直前に学校で配られた「地理センサー」をやりこんだら途端に伸びました。地理は友達とワイワイやるのが一番楽しくできるので、友達と地理クイズを出し合ってください。アルゼンチンの輸出品目第一位を答えられる人が少なかったです。





僕の高校受験はとても恵まれたものだと思っています。環境の面ではいうまでもなく、中学受験を少ししていたので勉強に抵抗なく中学1年から葛西教室で勉強することができていました。なにより大きかったのは、中1の時に部活を辞めたことです。もちろん部活を辞めて勉強に時間を回すことが素晴らしいと言いたいのではなく、受験の前に何か1つのことに全力で打ち込んで失敗したという経験をできたことが、今思えば良かったということです。挫折と呼べるほど崇高なものではないし、一種の高みに到達したわけではありませんが、かなり熱心に指導してくださる顧問のもとで、とにかく一生懸命走り、練習し、怒鳴られ、それでもうまくならず悩みに悩み、結局右も左もよくわからなくなって頭の整理もつかないまま退部した経験をした上で、何が悪かったのか、

どうしたらこんな経験をしないようになれるかをずっと考えた結果、「がんばりかた」を学ぶことができました。物事に全力で当たり、その後よく反省し、次に活かして自信に繋げるというサイクルの反省の部分で、頭を使わずにうやむやにしたためにバレーの面白さを忘れてしまい嫌いになってこんな結果になったのだと結論づけました。こうして受験までに努力の哲学をある程度身につけていたのでコロナで中3の最初はかなりたるんでいましたが、先生の叱責や僕より後に塾に入ったのに成績で追い抜いた同級生を見て、すぐ勉強に尽くすことができました。



大学受験は、体調の面であまり恵まれてはいないものでした。高1の頃は記憶がないくらい忙しくて充実していましたが、やっぱり高2夏の起立性調節障害の症状が一番重かった時期が大変でした。まず朝が全く起きられなく学校に行けない時期が続き、目が覚めていても勉強の意欲が湧かず、なんとかペンを持ったとしても頭がモヤがかったように思考ができないので何もできず、夜になれば無駄に冴えた頭で罪悪感と不安感に駆られていました。高3になって症状が落ち着いても、起きている時間が人よりも短いので、自習でS木先生の英語関連をやるだけで一日が終わっていました。結局本格的に自分の勉強に打ち込めたのは高3の夏明けで、塾に行っていなかった化学と思考能力低下の影響をまろに受けた数学は、その頃からちゃんと勉強できるようになりました。学習が遅れていたため当然模試は全てD判定でしたが、病気についてはこの頃にはもう散々絶望し尽くしたので、ある程度前向きに受験勉強は進んでいきました。英語と物理は塾の先生に完全に身を任せ、数学は一つ一つの問題を大切に、化学はとにかく問題集を一冊完成させて国語地理は直前に頑張ると割り切って進めました。一番良かった選択が、「共テ9割超えなかったら東大じゃなく東北大に出す」ときっぱり決めたことです。直前期も体調的に1日8時間勉強が限界であれこれ考える暇がなく、自分の現在地もよくわからないので、とにかく共テに打ち込んで、超えなかったら東大に縁がなかったと諦めるつもりでした。結果的に共テに全力集中したことでめっちゃいい点数が取れ、それを弾みにまた二次の勉強に打ち込むことができたので良かったと思っています。



ここまで自分のことについてたくさん書いてきましたが、特に大学受験に関してはそうそう同じ境遇の人がいないので、あまり参考にならないと思います。というか、個人的に大切だと思うことは、何かに対して全力で取り組み何かを得て次に活かすこの過程です。僕は受験というわかりやすい課題に対しては、周りに転がってる頑張れるきっかけを拾い集め、自分なりに素直に努力し、人として成長したように感じます。

日比谷高校も東京大学も、苦勞して入った割に不満もそれなりにあります。特に進振りに関しては、将来に関わることで競争を求められるのが嫌なので段々と東大が嫌いになり、その代わり東北大を好きになってきました。しかし、学校の制度に納得いかなくてもそこに集まってきた人は人間として尊敬できる人ばかりで、いい影響を受けながら成長することができました。そうした環境を得るために受験に向かって努力する価値は十分あると思います。Z会には、もっと言えば葛西教室には間違いなく環境は整っていると思うので、あとは自分が頑張るだけだと思います。ぜひ頑張ってください。

【編集後記】



どうもこんにちは、編集担当です。M.H.くんの受験振り返りエッセイ、いかがでしたでしょうか。ちょこっとスペースが余りましたので、ここでは記事の中で編集担当が「いいね！」と思ったことを2点紹介させていただきます。

①1つの問題集を完璧に仕上げる！

記事の中に、「参考書一つを何周も」「単語帳を何周もして一年かけて一冊完成」「2ヶ月で3周、苦手な理論分野は5周」といった表現がたくさん出てきたのに気付いた人も多いことでしょう。起立性調節障害(知らない人は調べてみてね)という、圧倒的ディスアドバンテージを抱えながらも現役で東大に合格した勉強法の秘訣がここにあるのでは？と編集担当は思います。隣の席のなんだか頭のよさそうな人が使っている問題集が気になってしまって、「あっちの方がいいかな？」なんてつつい浮気したくなっちゃったりするのが人生ではありますが、今手元にある一冊を何周も繰り返して「この本に載っている問題で私に解けない問題はない!!!」と宣言できるくらい完璧に仕上げることでこそ、合格への近道です。葛西教室に通っている皆さんは、「Z会のテキストに載っていることで知らないことはない！」と言えるようになってくださいね。そしたら最強です。

②失敗体験をそのままにせず、成功体験に変える！

中1の時に部活を辞めた経験について書かれていましたが、その時の反省点として「頭を使わずうやむやにしたために」という一節が出てきましたね。その経験を踏まえた彼の「努力の哲学」には、「頭を使う」ということが含まれているのではないかと編集担当は感じました。ライバルと比べて使える時間が限られている中での受験勉強は、かなり戦略的なものであったはず。実際、記事の中にも「どう数学で満点が取れるかを考えた」「母語話者がどう速く読んでいるのかを考えた」など、勉強を始める前にそもそも勉強のやり方を考えているシーンが目立ちます。部活を辞めるという、いわば失敗体験から「自分が頑張る続けるには『頭を使う』ことが必要だ」と分析し、そのことを活かして大きな成功体験につなげた彼の姿勢から見習えることは多そうです。みなさんにも、多かれ少なかれ失敗経験はあると思います(テストでやらかして茫然自失、とか…)。そんな時、ただ凹むだけではなくそこから何を掴めるかでその後が変わります。「努力の哲学」はきっと人によって違うので、いろいろ試して自分の哲学を見つけられるといいですね。ちなみに編集担当はパワータイプなので、「何も考えずただひたすらに手を動かし、量をこなす」派です。フィジカルでゴリ押し。

高校受験も大学受験も、人によって環境や得意/不得意が異なるので「合格した人のやり方を全部真似する！」のが最適解とは限りません。「これは私に合いそう」と思うものがあればぜひ取り入れてほしいですし、違うなと思ったら他のやり方でできるようになればいいんです。困ったときには、これまでいろいろな先輩たちを見てきたZ会の先生に相談に来てくださいね。お待ちしております。

月	日	曜	受付	本科生スケジュール				本科生以外の方対象のイベントなど	
5	26	日	10 ~ 20	6月度①	3V・3K 月例テスト	2V・2K 月例テスト	1V 月例テスト	10:00~12:00 3V保護者会	
	27	月	14 ~ 22						
	28	火	14 ~ 22						
	29	水	14 ~ 22						
	30	木		休室					
	31	金	14 ~ 22						
6	1	土	14 ~ 22					10:00~12:30 3K保護者会	
	2	日	10 ~ 20	6月度②				10:00~12:00 1V保護者会	
	3	月	14 ~ 22						
	4	火	14 ~ 22						
	5	水	14 ~ 22						
	6	木		休室					
	7	金	14 ~ 22						
	8	土	14 ~ 22						
	9	日	10 ~ 20	6月度③				10:00~12:00 2K保護者会	
	10	月	14 ~ 22						
	11	火	14 ~ 22						
	12	水	14 ~ 22						
	13	木		休室					
	14	金	14 ~ 22						
	15	土	14 ~ 22						
	16	日	10 ~ 20	6月度④					
	17	月	14 ~ 22						
	18	火	14 ~ 22						
	19	水	14 ~ 22						
	20	木		休室					
	21	金	14 ~ 22						
	22	土	14 ~ 22						
	23	日	10 ~ 20	7月度①	3V 月例テスト	2V 月例テスト	1V 月例テスト		
	24	月	14 ~ 22						
	25	火	14 ~ 22						
	26	水	14 ~ 22						
	27	木		休室					
	28	金	14 ~ 22						
	29	土	14 ~ 22					14:00~16:50 中1中2学力診断テスト	
	30	日	10 ~ 20	7月度②				9:30~13:00 中3公立トップ高受験適性診断	14:00~15:00 夏期講習説明会
7	1	月	14 ~ 22						
	2	火	14 ~ 22						
	3	水	14 ~ 22						
	4	木		休室					
	5	金	14 ~ 22						